知って得する

子育て小事典

第2号

光の泉幼稚園 園長高島哲男

Q. 下の子が生まれてから赤ちゃん返りが 見られるのはどうしたらいいのだろう か

下に弟妹が出来たら(兄弟げんか)

弟や妹が出来ると、上の子は敏感に感じ取り、 問題行動をとることがあります。言うことを聞かなく なったり、親が困るような事ばかりするようになった りします。登園を渋ったり、喧嘩や下の子に乱暴し たり、ひどい場合は、どもりやチック、おもらしを頻 繁にする等赤ちゃん返りも見せ

これは、下の子が生まれたことによってお母さんが下の子にかまって、今まで自分に一身に注がれていたお母さんの愛情を取り戻そうとする無意識の働きなのです。ある日を境にお兄ちゃんなんだからと、沢山の要求を突きつけられます。まだま

だお母さんに甘えていたいのに、

ます。

それが許されなくなります。下の子がまだお腹の中にいるときから感じることもしばしばです。それはお母さんの懐に飛び込んで来たとき、お腹の子をかばって上の子を避けたり、だっこや遊んであげることが急に少なくなるからです。

お母さんはそのつもりはなくても子どもの方は 敏感に感じ取って、僕はお母さんに嫌われたのか なと思ってしまうのです。

お母さんの愛情を確かめるために、色々なこと をします。始めは、褒めてもらおうと思って良いこと をしようとします。

ところが、お母さんから見ると「そんなこと出来て当り前」くらいにしか思っていないことが多いのです。お母さんの期待というのはいつも子供の能力より高いところにありますから、子供が努力して出来たことであっても、それで当り前としか見られないので、褒めたりはしないで済ませることになってしまいます。

努力が空振りに終わった子供は、今度はお母さんが困ることをやり始めます。そうするとお母さんはたまらずに、子供に手を掛けざるを得なくなるからです。それでも足りないときは、もっとすごい事をして愛情の確認をします。乱暴なことをしたり、チックや赤ちゃん返りはその典型といっていいでしょう。

このような場合は、上の子に厚い愛情をかけて あげることが問題の解決となります。 だっこしてあ

げる事等スキンシップが一番効 き目があると思います。

「だっこ」や「添い寝」の効き目はとても大きなものがあります。人は言葉を獲得してから言葉だけによるコミニュケーションに頼りがちですが、触れ合うこと、見つめ合うことの方がずっと沢山気持ちを伝えることが出来ると言うことをついつい忘れてしまっているのではないでしょうか。

それに加えて愛情あふれる言葉を添えてあげることがいいと思います。愛情あふれる言葉とは、子供が聞いて心地よい言葉と言えると思います。例えば、「おまえが一番好きだよ。」、「おまえは本当に可愛いね。」等、自分はお母さんから愛されていることを実感できる言葉だと思います。

子供は、「だめ」とか「いけません」という言葉を 待っている訳ではないと思うのです。子供が望ん でいる言葉は、子供の気持ちと一緒になったらき っと見つかると思うのです。(人によってそれぞれ



ですので、これという言葉はありませんお母さん一 人ひとりが自分で見つける以外に方法はありません)

この傾向は上の子が幼稚園に通うようになると 顕著に現れます。それは、幼稚園にいっている間 にお母さんと下の子が二人で楽しいことをしてい るのではないかとの想像が膨らんで来て不安にな るからで、登園拒否をしたり、頭痛や腹痛など体 の不調を訴えたりするようになることもあります。い つもお母さんの側にいて確認したいからです。

また、忘れてはならないのは兄(姉)になった喜びを教えてあげることです。赤ちゃんが生まれてくることをお母さんと一緒になって喜んでいくこと。生まれたら一緒に世話をして、弟妹の世話をすることを楽しめるようにすることです。そして、必ず兄らしいことをしたら、「さすがお兄ちゃんだね」と言って褒めてあげましょう。行動する前に、「お兄ちゃんだから〇〇しなさい」等と親の要求を突きつけるのではなく、行動した後褒めるのがコツです。

もう一つの方法としては、お父さんと協力して、 お母さんが上の子と二人きりになる機会を意識的 に作るようにしてみるといいと思います。一緒に 手をつないで歩きながら、新しい発見をするとそ こに共通の話題が出来て親子が一体になった感 じが生まれると思います。また時には、「弟(妹) には内緒だよ」と言って、何かおやつを買ってあ げるなど、特別扱いをしてあげることがあってもい いと思います。

よく、子供が、「僕と弟とどっちが好き」とお母さんに聞くことがあります。その時、「どっちも同じくらい」と答えたくなるものですが、「おまえが一番好き」と言ってあげた方がいいと思います。下の子が聞いてきたら下の子にも同じように「おまえが一番好き」と言ってあげれば言いと思います。みんなに同じように「おまえが一番好き」と言うことがこの年代に一番分かりやすい平等なのだと思います。まだ、矛盾ということが良く分からない年代なので、大人とは違う考えをします。

上の子に厚くという理由のもう一つは、それを見ても下の子にはまだ嫉妬心がそんなに大きく育っていないため、下の子にはあまり悪影響を及ぼさないからです。

兄弟げんか

喧嘩するんでない、兄弟は仲良くしなさいといっも言っているにもかかわらず、兄弟げんかが絶えなくてと、その対処に困って相談を受けることもよくあります。

その場合、兄弟げんかというのは上の子が手加減をしながらやっているのでそんなに心配しなくていいこと、兄弟げんかを通して、自己主張や交渉する力、相手の気持ちを考える力等が磨かれ、他の子供達の中に入った時の社会性が育つのでちょっと離れて見ている事がいいですよと、お話しています。そして、「お母さんは見ていなかったからよくわからない、ちゃんと説明して」と言って状況を説明する能力や、自分の主張を訴える能力を育てるようにしてくださいとお話しています。

特に気をつけたいことは兄弟げんかというのは お母さんの奪い合いという側面を持っているという ことです。おもちゃの奪い合いだけを見て兄弟げ んかを裁いてはいけないと思います。

よくあるのは「お兄ちゃんなんだから譲ってあげなさい」「お兄ちゃんなんだから我慢しなさい」等と下の子に味方する発言をしがちですが、その度に上の子は、またお母さんは弟ばかり可愛がっていると思っていきます。そうなると、自分の方が正しいということをお母さんに見てもらいたい兄弟げんかの他に、いつもお母さんを取られてしまう腹いせが原因となって喧嘩が始まることになると、上の子にとって悪循環となります。

また、子供達に善悪を理解させないで、お母さんが安易に裁きをつけてしまうと、お母さんは弟(お姉ちゃん)に味方した、弟(おねえちゃん)の方が好きなんだ、私(僕)のことは嫌いなんだと思ってしまうことになりかねません。